

2010年6月26日

## 2010年度 海老状況報告

### <産地及び海老状況>

各産地(タイ、ベトナム、インドネシア)では、海老の水揚げシーズンに入った。しかし、東南アジア、南アジアを中心に異常気象(高温、干ばつ)が続き養殖海老の斃死が伝えられている。

・タイ養殖海老池上げ数量 昨年 55 万トン

現在各地で発生している異常気象及び病気の発生により約 23%減 42 万トンに現象。

・ベトナム養殖海老池上げ数量 昨年 40 万トン

タイ同様に異常気象が続き約 35~40%減との予想 24~26 万トンに減少と予想される。

・インドネシアは一昨年、昨年と続いたホワイトスポットの発生により、どの程度の池上げ数量があるか不明。

このような最悪の状況下で更に追い討ちを掛けるように、アメリカ メキシコ湾での重油流出による海洋汚染が発生。現在も継続中であり有効的な策は高じられていない。

メキシコ湾周辺はアメリカで消費される、海老ブラウン、ホワイ、オマール、カキ等の名産地であるが、現在封鎖海域が拡大している。

メキシコ湾での海老水揚げ数量は米国全土の水揚げ量の 70%を占め、年間 11 万トン以上ある。漁場閉鎖による水産物の供給不足は水産物の高騰を招いている。この 1 ヶ月間でメキシコ湾産ホワイトの価格は 30%以上上昇しており、今後更に高騰すると予想される。

米国産海老価格が高騰すると、輸入の海老価格も上昇する。この上昇した価格をベースにして、東南アジアに強気な買い付けに入り、ベトナムからは BT を中心に、タイからは VM を中心に買付を進めている。この強気の買い付けの影響、異常気象による減産が重なり、池上げのメインシーズンを迎えるこの時期に入っても原料価格の高騰が続き、高値の米国向け注文により、日本向けの買付が出来なくなっている。

本来ならアンチダンピング対象にインドネシアから買付するはずが、病気発生によりネシア産買い付けを避けているので、更にベトナム、タイに集中している。

現在米国のシーフードレストランでは値上げをせざる得なくなっている。

この余波はエクアドル産、コスタリカ産水産物にも波及している。